

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アバンツアーレスポーツりふ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 42
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> サッカー支援プログラムによる運動療育 サッカーが苦手でも体を動かすことが楽しいと思える遊びや活動の提供を行う。 サッカー場を毎日しようとしてのサッカー支援プログラムの実施 	サッカーを通じて、「できた」「頑張った」「楽しかった」「うれしい」を感じてもらえるよう活動内容を工夫している。	活動プログラムの内容を工夫し、利用者の好奇心や自己肯定感が育めるようにしていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 月に一回、利用者や保護者のニーズに合わせて支援内容の研修や事例検討を行っている。 虐待防止や研修や身体拘束適正化研修の強化 発達心理学を基にした療育研修の実施 	従業員研修を行う事により、統一された支援を行う事ができる。 専門家による虐待防止研修や身体拘束適正化研修を行う事によって、従業員に知識の向上と支援での円滑な対応に繋がる。	利用者のニーズによりよく答えられるよう、従業員研修を充実させ、個々の知識やスキル向上を図る。
3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や利用者との信頼関係強化 利用者のニーズに沿った支援の実施 	送迎時の引き渡しや面談等で聞き取りをおこなったり、活動の報告を行い、利用者の思いやニーズの確認を行っている。	時間や場所を確保した、保護者や利用者が相談しやすい、話やすい事業所になるように取り組む

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	従業員の連携 支援方法の統一	アセスメントや個別支援計画の共有は行っているが、理解に個人差があり、共有をしても忘れてしまっている事がある。	定期的に共有を行う事で、支援内容や方法の統一を図る。 チャットなどを使い、口頭伝達だけでなく、文字として残し、見返しができるようにする。
2	保護者同士の交流会か家族が参加できる研修等が明確ではない。	親子サッカーや大会への観戦を進め、交流の機会を作っているが、交流会と名打っていないので、保護者は理解していない所があった。	交流会や勉強会など日程や時間を設けて開催する。 サッカー大会の後などに交流の機会を作る。
3			